

内閣府本府政策評価有識者懇談会（第 60 回）議事要旨（案）

1. 日 時 令和 7 年 8 月 27 日（水） 9:29～11:33

2. 場 所 オンライン（Microsoft Teams）

3. 出 席 者

（委員）

座長	白石 小百合	横浜市立大学国際商学部教授
	伊藤 正次	東京都立大学法学部、大学院法学政治学研究科教授
	小野 達也	追手門学院大学地域創造学部教授
	櫻井 彩乃	一般社団法人 GENCOURAGE 代表理事
	佐藤 徹	高崎経済大学地域政策学部、大学院地域政策研究科教授
	佐藤 主光	一橋大学経済学研究科教授

（内閣府）

廣瀬 健司	内閣府大臣官房政策立案総括審議官
永山 寛理	内閣府大臣官房政策評価広報課長
後藤 せいこ	内閣府大臣官房政策評価広報課課長補佐

4. 議題

- （１）令和 7 年度を事後評価の対象期間の初年度とする施策に係るロジックモデル及び事前分析表（案）について
- （２）内閣府本部政策体系に掲げる施策の状況（モニタリング）及び目標値等の変更に
ついて

5. 議事要旨

- 令和 7 年度を事後評価の対象期間の初年度とする施策に係るロジックモデル及び事前分析表に関し、各部局（政策統括官（共生・共助担当）、地方分権改革推進室、経済社会総合研究所、宇宙開発戦略推進事務局、国際平和協力本部事務局）からヒアリングを実施。委員からの主な意見やコメントは以下のとおり。

《共助社会づくりの推進》

- NPO 法人が実際にどの程度自走できているか等を把握し、寄附者への説明責任

を果たすためにも、NPO 法人のパフォーマンスを比較できるよう標準化することを検討いただきたい。(佐藤主光委員)

- 測定指標の目標値が前年度以上となっているが、限りなく現状維持が事実上の目標値になっており、目標設定値としては低いのではないか。(小野委員)
- インパクトに民間の創意工夫による社会課題の解決とあるが、その創意工夫によってどうなることを目指すのかというところをもう少し明確にした方がよいのではないか(櫻井委員)
- NPO の数が増えていくということが本当に望ましいのかを考える必要がある。(櫻井委員)
- インパクトの指標が直接的に測れていないので、参考指標とした方がよいと思われる。(佐藤徹委員)

《性的指向・ジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する基本的な計画の策定・推進》

- 中目標②の指標として施策の数はふさわしくないので、何か別の指標を検討いただきたい。(佐藤徹委員)
- 中目標②を施策数で測るのは難しいと思われる。(伊藤委員)
- 中目標②の指標として国民の理解度を測っていくことが重要であり、国民の理解度や実感を取れるような調査やアンケートで測るのはどうか。(櫻井委員)
- 本来、施策の実施はアウトプットであるが、アウトカムになっているのが特徴的である。国民だけではなくて行政側、特に地方公共団体の理解も深まるみたいなことを目標にして、何らかの形で測定指標を設定することを検討してはどうか。(佐藤主光委員)

《地方分権改革に関する施策の推進》

- 参考指標としている国民認知度・実感度の向上は本質的な部分に当たるので、測定指標として設定した方がよいのではないか。(佐藤徹委員)
- 地方自治体の提案に対するフィードバックがあってもよいのではないか。(佐藤主光委員)
- 短期アウトカムの測定指標である「提案への対応割合」の目標値が低いのではないか。また、設定の背景が説明されていないのではないか。(小野委員)

《経済社会総合研究の推進》

- 測定指標①③の設定根拠を令和5年度と6年度の2か年の実績の平均として

いる理由は何か。設定根拠の趣旨を記載した方がよいのではないか。(小野委員)

- 報告書公開の前段階でプロジェクトの進行があるはずなので、プロジェクト数を参考指標とすることも検討してはどうか。(佐藤主光委員)

《宇宙開発利用に関する施策の推進》

- 宇宙産業市場規模の目標の根拠はなにか。また、目標のうち、本施策の貢献度はどれくらいなのか。(佐藤主光委員)

《国際平和協力に関する施策の推進》

- 参考指標で調達量がゼロとなっているものについて、適切な量の調達はできているのか。(白石座長)

○ 内閣府本部政策体系に掲げる施策の状況（モニタリング）及び目標値等の変更について、政策評価広報課から説明。委員からの主な意見やコメントは以下のとおり。

- 進捗状況の把握にあたって議論する機会はあるのか。(白石座長)
- ある程度基準年をそろえないと横の比較ができないが、これはデータを取る間隔の違いによるものなのか。(佐藤主光委員)

<文責：内閣府大臣官房政策評価広報課>